すずか民報
第１２３号
2006年10月18日

日本共産党鈴鹿市議団
市議会報告特集

障害者・高齢者にひどい仕打ち

自民・公明のすすめる改悪で もう暮らしていけない！

市として支援を 日本共産党市議団

森川ヤスエ議員は、6月議会で「障害者自立支援法」、9月議会で「改悪介護保険法」による市民の負担増への市としての支援策を求めました。

森川ヤスエ 市議

障害者本人も施設も、市役所もみんな困っている

障害者自立支援法により、これまで無料だった障害者サービスが1割の「応益負担」となり、通所をやめたり日数を減らす利用者が続出しています。また施設は利用者の利用控えに加えて、支援費の単価が月額から「日払い」方式（利用者が来た日だけが支払い対象になる）になり、収入が激減して運営が困難になっています。

さらに市の担当課は法改悪による事務手続きに追われて、連日残業に明け暮れています。

こんなひどい改悪に対して、障害者の利用負担への支援、施設の運営への支援が緊急に必要だと、森川議員は求めました。市側は「困難さは理解しているので、検討する」と答えましたが、具体策はまだ出されていません。

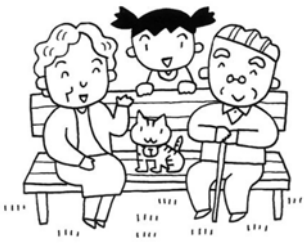
高齢者にもあらたな負担とサービス取り上げが

森川議員は、介護保険でも改悪により、「地域包括支援センター」の実務がオーバーとなって運営が出来なくなっている実態を示し、人的な支援が必要だと強調しました。

また森川議員は、10月から電動ベッドなどの福祉用具サービスが取り上げられる高齢者への支援も求めました。介護度の低い人ほど利用が多い福祉用具の取り上げは、高齢者から自立した生活を奪うものとなり、現場では深刻な事態がすすんでいます。

市は悪政から市民守る「防波堤」に

自民・公明連立内閣がすすめる福祉の切捨てで、日本中から障害者や高齢者の悲鳴が上がっています。こんな時こそ自治体は、市民の暮らしを守る防波堤の役割を果たすべきです。共産党市議団は、対応のにぶい鈴鹿市に対して、もっと市民の生の声を聞いて必要な支援策を出すことを、きびしく求めました。



鈴鹿市内の障害者通所施設での利用控えの実態

（3月まで負担なしで週5日通所していた利用者）

通所をやめた	１人	
1万円以下に抑えている	１１人	週１～２日
1～2万円に抑えている	１６人	２～３日
2～3万円に抑えている	３人	３～４日
3万円以上の負担	１人	５日

（共産党市議団の聞き取りによる）

白子に子育て支援施設

勤労青少年ホームを活用

利用者の低迷する勤労青少年ホームが改修されて、来年4月から昼間は、親子で集まれる子育て支援施設になります。

以前から共産党市議団は、役割を終えた施設や遊休施設を有効に活用することを提案してきました。このような市民のための施設利用を、さらに進めるべきです。

改修工事の始まる勤労青少年ホーム

追分町 住民パワーで

産廃焼却施設計画をストップ

4月ごろ、追分町の農地の中に、温水を沸かして「養魚場」を作るという名目で、廃プラスチックを燃やすボイラーの計画が表面化しました。これを知った住民は、自治会をあげて反対運動をすすめ、ボイラーを認めた県に撤回を、業者に撤退を求めました。

6月議会では、石田議員ら3議員が質問に立ち、石田議員は「これは農業用ボイラーではなく産廃焼却炉だ。こんなものが許されれば、プラスチックゴミを燃やさず埋立てている鈴鹿市のゴミ行政が成り立たなくなる。業者の『偽装』にきびしく対処を」とただしました。

その後、住民パワーを受けた県市が姿勢を強化し業者を指導、業者は撤退を表明しました。

安直な「配本事業」計画やめて きちんと「分館」の計画立てよ

市立図書館は9月で移動図書館の巡回サービスをやめ、その代わりに11月から、各地の公民館に図書を配本し、月1回ほど入れ替えに巡回する「配本サービス」を始める予定です。

石田秀三議員は9月議会で、「当面をつくろうだけの安直な計画はストップさせ、再検討すること」を求めました。

人も予算も体制もなし、移動図書館よりもサービス後退

計画されている「配本サービス」は、公民館にわずか1千冊の本を置くだけ、職員は配置せず、本館から月に1度、1時間ほど本の入れ替えに行くだけ、という貧弱な内容で、移動図書館よりもサービスは後退します。

石田秀三 市議

石田議員は、31ヶ所もの公民館に3万冊以上の新しい本の配置はできない、そのための人員や予算もなし、準備期間もなし、しかも今年は1千万円も図書費をけずったばかりで、サービス向上の意欲も姿勢もないことは明らかだ、と批判。計画をやめて、改めて全域サービスのあり方から検討し直すことを求めました。

せめてこれくらいの図書館にして。
児童書主体の江島カルチャーセンター図書館

「文化振興部」の名にふさわしい中身に

移動図書館廃止に反対する署名の代表の一人、上野町の加藤正美さんは、「周辺地域の図書館サービスを切り捨てるようなことはやめてほしい。予算もせめて元に戻すべき。」と語っています。石田議員も「全国どこをみてもこんな半端なやり方はなく、恥ずかしい。20万都市鈴鹿の図書館は、東西南北に分館をつくって、やっと普通のレベルになるという認識がまったくない。『文化振興部』をつくった川岸市長の、文化的な見識が疑われる」と述べています

鈴鹿市がいちばん低い！

臨時職員の待遇改善を

森川議員は6月議会で、北勢地方の自治体の中で、鈴鹿市の臨時職員の待遇が最低水準であることを指摘し、改善を求めました。臨時といっても、専門性や責任ある仕事をしていて、何年も継続雇用している実態があります。いま鈴鹿市は、嘱託・臨時など非正規職員を500人以上も雇用しています。市側は、全体を調査し検討すると答えました。

一般事務パート賃金比較

自治体名	時給(円)
いなべ市	９６２
木曽岬町	８１２
四日市市	７３１
川越町	７３０
朝日町	７２７
菰野町	７２０
桑名市	７１２
亀山市	７１０
鈴鹿市	７００

長良川導水事業の破たん 県がとうとう認める

鈴鹿の上水道には一滴も要らない

「三重県は長良川河口堰から上水道への導水事業の、当初計画どおりの実施をあきらめた」と、新聞報道（10月3日・朝日）がされました。北勢地方で4万7千トン、うち鈴鹿市は1万3千トンという前提で進めてきたムダな事業が、いよいよ破たんしたことを、当事者が認めたのです。

過大な鈴鹿市の水道5期計画も作り直せ

9月議会の水道事業決算質疑で、石田議員は「平成12年から10年の第5期拡張計画は、もう期間の半分を超えたのに、長良導水を入れた過大な数字はそのままでは済まない。抜本的な見直しは必至の情勢だ」と、早急な見直しを求めました。

5期計画の「一日最大給水量」は、12万5千トン、しかし17年度実績は8万7千トンと7割ほどで、今後も伸びる見通しはありません。長良川の水が1滴も要らないことは明らかです。

これからは老朽施設の更新と耐震化に全力を

石田議員は「いま水道局の実際の仕事は、長良導水関係をタナ上げし、老朽施設の更新にすでにシフトしていて、ますます計画と現実がかけ離れている状態だ。もう実態に合った計画に直さなくては、さらにムダな費用と手間をかけることになる。」と指摘しました。

水道局長は、「遅れている老朽施設の更新、耐震化、危機管理と安定供給に全力をあげたい」と、計画の見直しに向けて進むことを表明しました。

水道の動脈・平野水管橋（1971年建設）
老朽化がすすんでいる

生活相談はお気軽に

石田 秀三　TEL 371-0423
鈴鹿市伊船町２７５１

森川ヤスエ　TEL 384-3740
鈴鹿市矢橋３丁目10-34